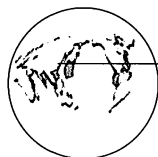


海外動向

フランスの工学系大学のマネジメントと 学生気質 Ⅲ



斎藤之男*

Yukio Saito

1. EUの大学へ殺到する学生たち

海外動向連載 I でも触れたことだが、大学への進学率は日本のように 60% 近くが大学へ進学するなど考えられないことである。1985 年のイタリア・ポーロニア会議以降、EU の大学院進学は自由になり、どの国の大学院でも選べるようになった。しかし、そこには足かせが存在する。1990 年頃から具体化した EU 内の大学評価である。優秀な学生は、自分の望む研究がどの大学でできるか、就職率はどうかなど選択肢は広い。やはり、有名大学への進学は夢である。また、フランスのようにグランゼコールと一般大学の組織の違いもある。

国を超えて進学するには、語学の問題という共通の悩みもある。

その為に、EU の大学では、ドイツを中心に大学院への勧誘のフェアが開かれている。2011 年の

「MASTER AND MORE EVALUATION」では、EU の大学院大学を含め 130 校がドイツの 3 か所でフェアを開催している。対象は大学院へ進む希望者である。

そこでは、各大学がブースを並べ、EU 圏内、圏外から集まった大学生に奨学金や進学相談、学内のプログラム、環境の良さなど相談を通しアピールする場である。その一つ、「FAIR BERLIN」に集まった国のトップ 10 カ国は、①英国、②オランダ、③スカンジナビア諸国、④USA、⑤スイス、⑥オーストリア、⑦アイルランド、⑧フランス、⑨スペイン、⑩ベルギーである。勿論、ドイツからの参加者も多い。参加者の 70.7% がまず、外国で学びたいと希望を持って参加しており、それでも国内の大学を選ぶ可能性の 30% は見逃せない。また、「FAIR STUTTGART」では、参加者の希望する学部として；

学部	参加者の学部希望の割合
農学・林業・動物または栄養学	6.5%
情報・通信工学	6.2%
工学（機械・電気工学など）	18.2%
芸術と音楽	3.6%
数学と自然科学	9.6%
メディア	15.1%
医学と健康科学	9.4%
法律と社会科学	11.6%
語学と教養科学	9.6%
経済とマネジメント	52.6%
その他	9.6%

* 芝浦工業大学，正会員